

古民家の保存と活用の事例；山村における古民家とその周辺景の堪能

2015.8.22

1. はじめに

富山県大岩にある山村の古民家と周辺景をまもる活動について概説するとともに、活動の背後にある問題に対し考察することにした。なお、子どもについては古民家での居し方において扱った。

2. 経緯、問題の所在と対応

全国どこでも山を抱える地域では、中山間地域の生活圏をどうするかが大問題であり、ひとつの解決策として、農業振興として都会とのタイアップで生産地の活性化をはかり、観光農園を運営し賑わいを創出するといった取り組みが行われることが多い。一方、中産間といつても農地すら確保できない地域については、グリーンツーリズムや観光林業といった取り組みも進んでいる。

しかしながら、それらの取り組みには大なり小なり観光にたよるという基本路線が先行するためか、中山間の環境保全を集落や街がどう担っていくのかという基本命題については問題がかすみがちのように見える。

著者は、いまひとつ踏み込んだ解決策が依然求められているとして、中山間の環境保全の立場からの地域づくりへは如何にあるべきかを考え、郷里の山をくまなく散策していたときに、数軒の古民家に出会った。

そのうちの一軒は2010年にアニメ映画のイメージモデルに選ばれた。2012年にはアニメ「おおかみこどもの雨と雪」が大ヒットし、当該古民家では状況が一変した。多くの方々が当該地を訪れるようになると、「観光のスポットだけでいいのか、荒廃の憂き目に会わないように」と主張する有志たちにより、今後どうして行くべきか、山の保全、自然体験、映画の聖地、など多様な観点から議論を行い、方針を策定しながら、活動を組織化することになった。こうして、古民家を周辺景とともに保全に努めるとともに、そのための訪問者受け入れ(観光)のあり方をも検討しながら今日に至っている。

(1) 経緯 有志の会：12年7・8月頃に自然発足。

社団：12年11月設立。NPOの設立前に解散。

NPOおおかみこどもの花の家：14年10月設立。

(2)会勢

任意団体から数えて3年経過

理事8人、監事1人、会員数85人

来場者 正確な集計無 10月～3月の半年間1700人

属性 映画ファンとハイカーは半々、

最近は映画ファンが多い。

3. 具体的な情景の構成要素

古民家の情景はあのロケーションにある。まず当該の山村風景としては、大岩は立山の前座に位置する靈峰群のひとつ大日岳が見える谷筋にあり、当然靈場として山岳密教寺院日石寺が神秘的な雰囲気をかもし出している。古民家(築128年)はそんな山の奥にあり、70年前には村には20数軒あった家が今では2軒しか残っていないが、自然の良さと人の地味な営みが感じられる。

古民家についてはいわゆる田の字型プランであり、メインが大広間となっている。母屋からの下屋が縁側として内と外をつないでいる。中から縁側を通してみる外の光景は逆に縁側をいやが上にも盛り上げてくれる。縁側に腰を下ろしてぼんやりと外を眺める方々が大変多いのもうなづける。また、部屋のムード作りとして、アニメと同じように蚊帳あり、木造湯船あり、花壇あり、インテリアありである。

4. 活動、方針と事業

(1)方針 寄り合い所帯の本会らしく、方針は「映画の聖地として情景の保存」とするものの、映画とは関係なく「中山間の古民家と周辺景の保存活用」の解釈もできるようになっている。

では情景の保存をどう達成するのか。これには、情景堪能のファン・理解者を増やすことがあり、映画ファンの聖地巡礼者はもちろんのこと自然愛好家や環境愛好家に当地を訪れて頂くことが第一とした。また、そこで繰り広げられる(訪問者をも含めた)人間ドラマが本来の情景保存そのものとした。

なお、訪問者受け入れには、効率優先や都会の生活様式を入れない独自の道を探ることにしており、その意味で安易な賑わいは求めないとした。

(2)事業 以下の4事業。
・古民家の維持管理、
・古民家の公開事業、
・観光促進事業(イベント)、
・交流事業(会報)、物品制作販売事業、



写真1 古民家とその周辺

(2.1)観光保全事業は古民家維持管理事業の一環として、周辺山林における登山道や農業用水路の掃除、枝打ちなどを含む。

(2.2)公開事業については、来場者へのおもてなしもはいる。来場者が山間地の日常を楽しめるように、日常品からなる室内空間に身をゆだねて頂き、ティ茶、歓談の相手、説明、などで心づくしとする。したがって、ここでは、入館料は取らないばかりか、(見学を強制する)見学順路や民俗品展示などをいわゆる観覧のための縛りを一切なしとしている。

5. 来場者

(1)自然愛好家 当該地から稜線でると雄大な立山連邦が一望できる。自然愛好家は立山展望を鑑賞した後、休憩がてらに古民家に立ち寄り古者の歓迎を受けるといったストーリーを楽しんでおられる。(2)映画(鑑賞したファン)の方々 アニメ映画を鑑賞された方々は当然古民家およびその周景を一目見たくとにかく訪問といったニーズでおこしになられ、大変満足されて帰っていかれる。

6. おもてなし、来訪者の居す様子

映画を鑑賞された方々は、(室内を含め)古民家およびその周景を十分に熟知しているためか勝手知った我が地ではないが、何の違和感もなく当地に溶け込むが如くである。以下に家の内外の様子を記す;(1)ありのままの世界を堪能;来場者はありのままの世界をありのままに楽しみくつろいでいる。また来場者の日常が山村の日常と重なりあっている。



写真2
大広間で紙芝居



写真3
ストーブを囲んで団欒



写真4 縁側での
くつろぎ
親子、オオカミ



(2)子どもを中心とした光景:家の内外ではこども達が主役であり、子どもは庭では走り回り、家の中では絵を描き、親から絵本を読んでもらい、遊びに興じ、そして子どもの親御さんや他の大人たちも子どもを見守っている。そんなほほえましい光景が実際に極自然につくられている。

(3)子どもはアニメ世界に入り込む:アニメ世界と同化する現実を楽しんでいるようにもみえる。そんな子どものしぐさは時として大人までもアニメの世界に導いてくれる。

(4)来場者は子どもづれの方々、カップル、友達同士、などであり、それぞれの団欒は当然のこと、他の方々同士の団欒もまたお茶を介して極自然に花咲いている。ストーブ部屋では食べ物を介して特に。

7. おわりに

中産間地域の環境保全のあり方を念頭において富山県大岩地域にあるアニメ映画で話題になった古民家および周辺景の保全活用の活動を紹介し、同時に情景堪能について検討した。その結果、本取り組みが地味ながら多くの方々に理解を得たと思っている。末筆になったが、関係各位に謝意を表する。